

● 立地環境から見た人工林生育適地の抽出

赤谷プロジェクト・エリアの植生は、人為によりその多くが代償植生に置き換えられている現状は、現存植生図に整理した（『平成18年度 自然再生推進モデル事業報告書』, PP233-237, 2007年3月）。また、こうした代償植生に人間の影響を一切停止させた場合、気候、地質・地形・土壌などの立地条件が植生分野においてどのような自然植生をつくり出すかを想定する潜在自然植生図をまとめたところである（『三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）推進事業 平成20年度報告書』, PP52-57, 2009年3月）。

そこで、赤谷プロジェクトで、古来からの森林施業の歴史と木材生産の継続可能な立地環境から「持続的な地域づくり」の一環としての林業的活用も進めることとしている仏岩エリアと合瀬谷エリアについて、立地条件等を踏まえ人工林施業の適地を特定し作成した（抽出条件は以下の通りである）。赤谷プロジェクト・エリアで目指す、本来あるべき植生としての潜在自然植生に、特定された森林施業域を重ねた図は、右の通りである。

- 木材生産の樹種は積雪量等からスギおよびヒノキに特定した。
- 木材生産の標高上限はスギ、ヒノキの生育特性から900m以下とした。
- 地形条件・・・尾根、傾斜40度以上の斜面は森林施業域から除外した。
- 土壌条件・・・乾性ポドゾル(PD)、乾性褐色森林土(BA、BB)、弱乾性褐色森林土(BC)、湿性褐色森林土(BF)、グライ(G)、受蝕土(Er)の分布域は森林施業域から除外した。
- 法的制限・・・土砂流出防備保安林は土地保全の観点から除外した。
- その他・・・岩石地、崩壊地、荒廃が危惧される河川周辺は森林施業域から除外した。

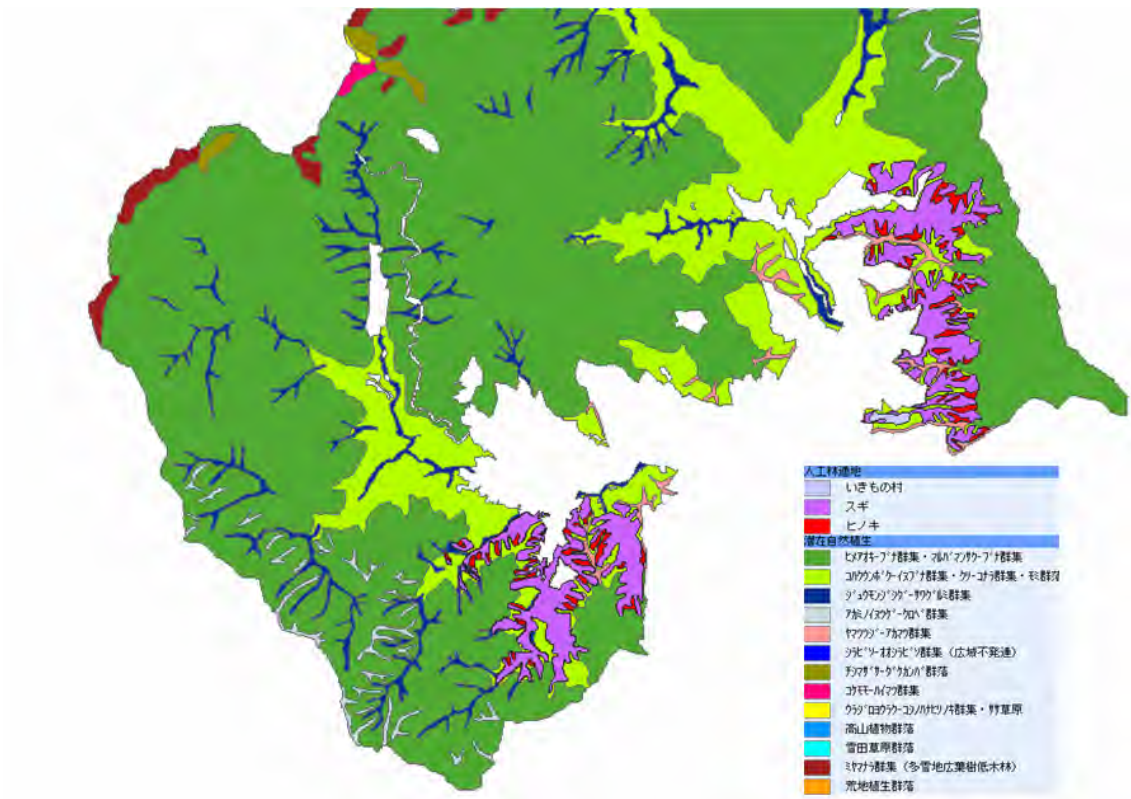


図 仏岩エリアおよび合瀬谷エリアにおける森林施業域と潜在自然植生